

KITAKEI-Report

No.188
April2025

発行：北恵株式会社 〒 541 - 0054 大阪市中央区南本町 3 - 6 - 14 TEL.06 - 6251 - 6701
https://www.kitakei.jp/

防犯の提案不足が浮き彫りに 今後は安心・安全・防犯が肝

防犯性能の高い建物部品に付与される「CP マーク」の認定を行っている5団体防犯建物部品普及促進協議会は2月27日、「戸建て住宅における防犯意識調査」の結果を発表するため、記者発表会を開催しました。

CP マークとは侵入防止に有効な開口部製品であることを示す標準のこと。平成16年に官民合同会議で制定されました。同会議は3省庁16団体で構成されており、16団体のうち開口部関連の製品を供給しているメーカーの業界団体5団体から、5団体防犯建物部品普及促進協議会のメンバーとなっています。

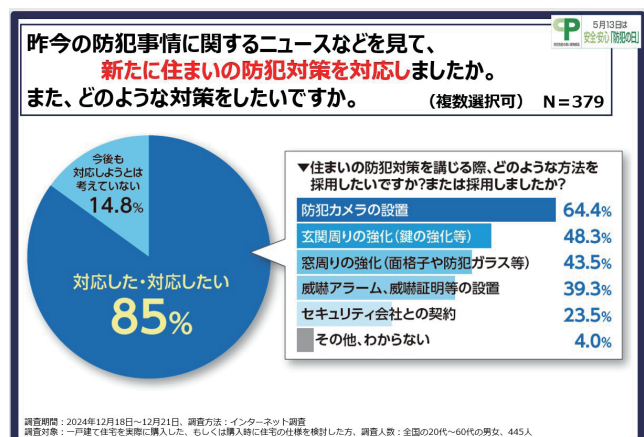
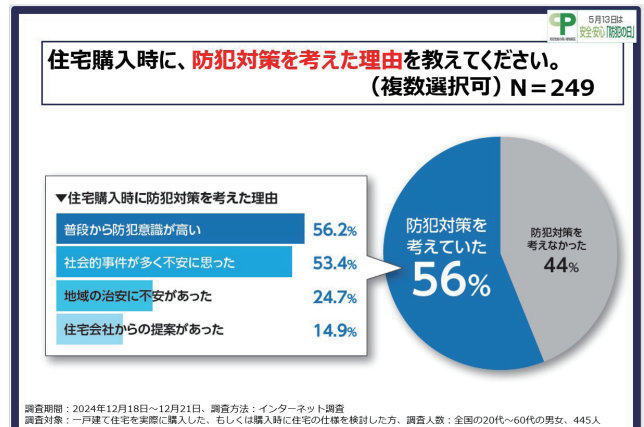
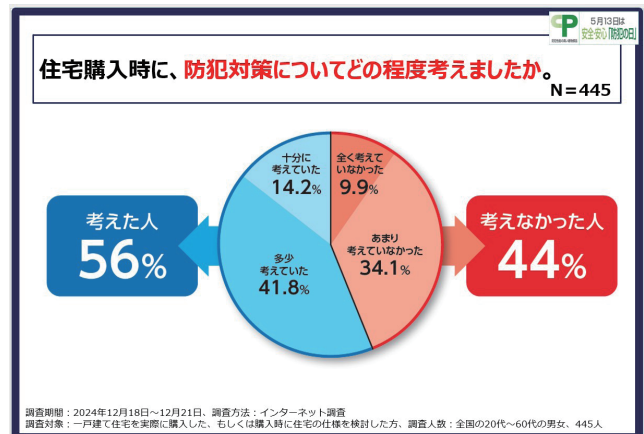
同調査は2024年12月18～21日に一戸建て住宅を実際に購入した、もしくは購入時に住宅の仕様を検討した全国の20～60代の男女445人を対象としてインターネット上で行いました。

その結果、住宅購入時の住まいづくりの際に、防犯対策を考えなかった人が44%にのぼったほか、その理由は「防犯知識の不足」が首位を占めました。さらに、防犯対策を考えた人にその理由を聞いたところ、トップは「普段から防犯意識が高い」という回答でしたが、一方で「住宅会社からの提案」があったとの回答は僅か15%にとどまりました。

工務店からの提案が不足している現状が浮き彫りになりました。建物部品メーカーで構成する同協議会はこの結果について「非常に低い」としており、「我々住宅関連事業者はより一層発信を強化していかなければならない」とコメントしました。

防犯といえば、昨今報道で話題になっている「闇バイト」の影響が無視できません。昨今の防犯事情に関するニュースを見て、防犯対策を対応した・対応したいと考えている人は85%となりました。同協議会は報道などによって「防犯対策の重要性に関する認知が進んでいる」と指摘しました。

防犯対策を講じる際に採用したい、または採用した方法を探ねたところ、トップは「防犯カメラの設置」となっていました。同協議会の担当者は防犯カメラは(侵入の)抑止にはなるが、実際の犯罪はスルーしてしまう」とし



た上で「侵入を防ぐためにはCP マークのついた建物部品が必要だ」と指摘しました。

Report

同協議会の担当者は昨今の住宅リフォームが健康・快適・省エネという観点で推進されている点に触れました。今後はさらに「安心・安全・防犯」といった切り口が重要となると総括しました。

7回の打撃でも十分な大きさの穴あかず CP建材で侵入防ぐ

CP製品には大別して「ガラス・フィルム」、「錠前・電子錠」、「ドア・サッシ・シャッター」があります。2024年10月31日時点の目録登録数17種類3485品目となっています。

このうちガラスについては一般的にフロート板ガラスや網入板ガラス、強化ガラスなどがありますが、CP製品の認定を取得できるのは防犯ガラスだけです。担当者は「稀に一部報道のコメンテーターから強化ガラスが防犯に役立つとの発言を聞くが、強化ガラスに防犯性能は望めない」と話します。強化ガラスは通常の板ガラスに

比べて衝撃や風圧に耐える強度を持っているものの、防犯を目的とはしていません。

防犯ガラスは2枚以上のガラスの間に中間膜を挟み、熱と圧力を加えて接着します。このことから破片が飛散しにくく、加撃物が貫通しにくいのです。実際に打ち破り試験を行い、打撃を7回加えても十分な大きさの穴が開かないことや侵入に対して5分間抵抗できるかが求められます。5分間の理由は（財）都市部犯罪研究センターの調査で侵入者の7割が5分で入れなければ諦めると答えたためです。

また、同協議会はガラスの室内側に貼り付ける防犯フィルムは安価かつ短納期で施工できるため、「既存の窓ガラスの防犯性能を高めたいときに最適」としています。ただし、防犯性能を確保するためにフィルムの種類や施工方法に一定の要件が定められています。このため、施工は「防犯フィルム施工技術者」の資格を持つプロが行う必要があります。

室内環境の整備も重要 花粉症の発症、「3～5歳」最も多い

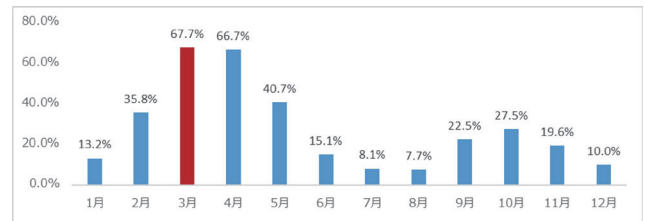
花粉症は未だ多くの国民を悩ませ続けている社会問題です。こうした中、(株)一条工務店は「花粉症に関する意識調査 2025」を実施し、その結果を発表。調査対象は花粉症と診断されているまたは花粉症だと自覚している男女690人、調査期間が昨年12月7～15日となっています。

まず、「2024年の1年間で、実際に花粉症の症状が出た月」を質問。結果は1月が13.2%だったが、2月には35.8%と徐々に増え始め、3月には67.7%とピークに達していました【図1】。

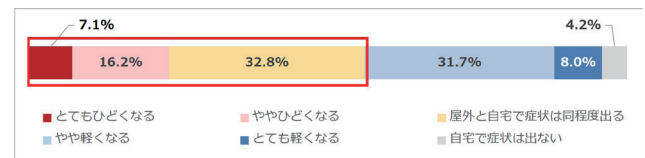
次に、「自宅にいる時、屋外と比べて花粉症の症状はひどくなりますか?」と質問。「とてもひどくなる」(7.1%)、「ややひどくなる」(16.2%)、「症状は同程度出る」(32.8%)と回答した人を合わせると、半数以上の人か自宅でも屋外と同程度の症状が出ているか、もしくは症状がひどくなっていることが分かりました【図2】。

加えて、花粉症の症状が自宅でも屋外と同程度出るもしくはひどくなると回答した387人に、「花粉症の症状が理由で家にいるのが憂鬱になりますか?」と質問。4割以上の人か憂鬱に感じていることが分かりました。

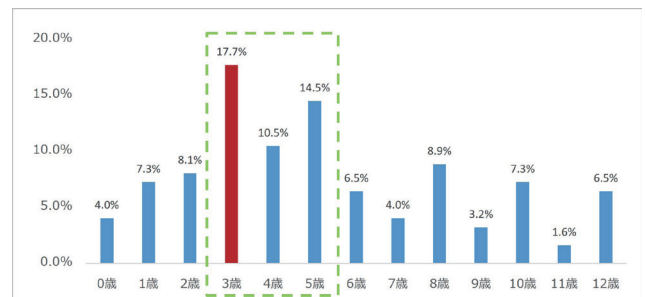
最後に、同居している家族の中に小学生以下の子ども(0～12歳)がいて子どもか花粉症だという124人に、「お子さまは何歳から花粉症を発症しましたか?」と質問。1位が「3歳」、2位が「5歳」、3位が「4歳」となり、3～5歳までに発症したと回答した人が4割以上いることが分かりました【図3】。



【図1】2024年、実際に花粉症の症状が出た月 (n=690) ※複数選択可



【図2】自宅にいる時、屋外と比べて花粉症の症状がひどくなる人の割合 (n=690)



【図3】子どもが花粉症を発症した年齢 (n=124)

日本医科大学の大久保公裕教授は「以前は花粉症は成人の病気と考えられていたが、3歳から5歳での発症が最も多く、さらに症状も多岐にわたっている。この時期のお子様が多くに長く出ていることは少ないと思うので、室内環境の整備も重要」と指摘しました。

花粉症対策

住宅に国産スギを積極的に活用

政府は令和5年5月30日に「花粉症対策の全体像（花粉症に関する関係閣僚会議決定）」をとりまとめています。同全体像では、3つの柱として「発生源対策」、「飛散対策」、「発症・曝露対策」を掲げました。

「発生源対策」では、花粉発生源のスギ人工林を10年後に2割減少させることを目指しています。そして、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化と併せて、スギ

製材の加工流通施設の整備や安定供給体制の構築とともに、伐採したスギを住宅などの建物で積極的に活用する需要の拡大を図ることが示されています。

こうした中、（一社）住宅生産団体連合会（住団連）は、傘下団体の主な会員企業の国産スギ材の利用状況や、その他国産木材の利用推進に向けた取り組み等を「住宅生産者による国産スギ材等の利用状況」として取りまとめ、発表しました。

東京都、4月より太陽光発電の設置義務化 ファミリー層の郊外化を一層の促進か

東京都では、今年4月より「都内における年間供給延床面積が合計2万平米以上の事業者」あるいは「申請により知事から承認を受けた事業者」が都内に新設住宅を建てる場合に太陽光発電の設置が義務付けられます。

こうした中、（株）LIFULL（ライフフル）が運営する不動産・住宅情報サービス「LIFULL HOME'S」は、太陽光発電の現在の設置状況や販売価格について調査し、その結果を発表しました。集計地域は「全国」・「東京都」・「東京23区」の3カテゴリー、集計期間が2021年1月～2025年1月となっています。

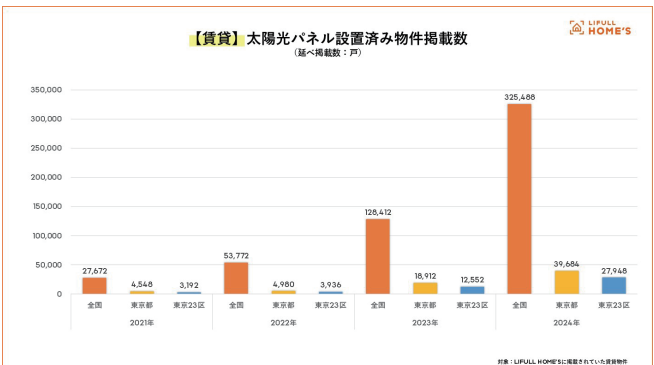
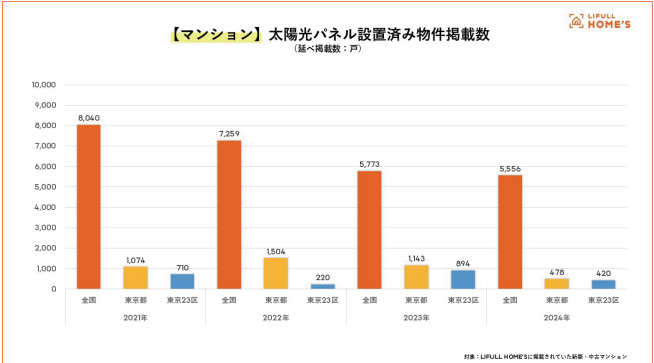
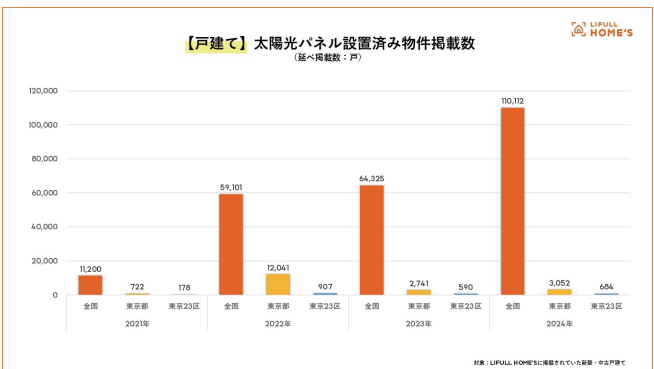
太陽光パネル設置済みの新築・中古戸建てについて、「全国」の物件掲載数は増加の一途を辿っています。一方で「東京都」では2022年に1万戸を超えたものの、2023年には3000戸弱にまで減少、2024年は3000戸強と若干の増加を見せています。

一方、マンションについては、戸建てと異なり「全国」・「東京都」・「東京23区」とともに2024年まで減少傾向となっています。

賃貸物件については、「全国」で2021年から年々増加し、2024年は昨年対比253%と急増。「東京都」においても全国と同様の動きで、2023年から急激な増加を見せています。

続いて、東京都内の太陽光パネル設置物件の平均賃料・価格を物件種別ごとに調査。戸建て（100㎡換算）は全物件平均が5545万円、太陽光パネル設置物件が7991万円と2446万円の差となりました。マンション（70㎡換算）にいたっては全物件平均が6520万円、太陽光パネル設置物件が1億1488万円と4968万円もの差額が生まれています。賃貸物件については全物件の平均賃料（50㎡換算）が15万6844円/月だったのに対し、太陽光パネル設置物件は16万5886円/月と約0.9万円の差でした。

同社担当者は「都内で住宅購入することのハードルが極めて高いなかで今回の条例が施行されることにより、



住宅価格はさらに上昇する。そのため、住宅購入予定者が東京から転出して周辺3県および遠での住宅購入を検討する可能性が高まることばまば確実で、条例の制定によって“ファミリー層の郊外化”が一層促進されることになりそうだ」としました。

キタケイの提供する2つのプライベートブランド

環境・ぬくもり・素材をテーマとした各種住宅資材 “ スプロートユニバーサル ”

天然木にこだわったフローリングや壁材 “ リラクシングウッド ”

企画・製造から販売までトータルにプロデュース、心からご満足いただける住まいづくりをバックアップします。



www.sprout-univ.com



www.relaxssingwood.com

リラクシングウッド

抗菌・抗ウイルス加工 フローリング ウイルスガードコート シリーズ

